● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	**ブランド糸島で活気あふれるまちづくり**
政策	**（１）農林水産業の振興**
施策	**①　農林水産業の活性化**

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①担い手不足や価格の低迷など、農林水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。 ②持続可能な農林水産業のためには、生産施設の経年劣化への計画的な対応が必要です。 ③温暖化などの環境変化は、農作物の育成不良や漁場の変容などの影響を与えています。 ④森林の荒廃を防ぐため、適正な森林整備、森林資源の安定利用が必要です。	・農業の生産性が低い ・海面上昇による港湾整備 ・40年前から同じ内容のようだ。本当にそうなのか。ハード整備だけでいいのか ・大雨や台風などの災害被害への対策 ・特に中山間地域の人手不足

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶持続可能な農林水産業のための経営支援を行います。 ❷安全で安心して利用できる農業施設、漁業施設などの整備を計画的に行います。 ❸漁場の造成による「つくり育てる漁業」など、環境変化に強い産地に向けた取組を推進します。 ❹森林の計画的な伐採、木材供給体制の構築などによる森林の保全・整備を推進します。	・県、国、その連携の強化 ・ＩＴ導入 ・中山間地ならではのブランドを作る。「中山間地米」的な

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）関係機関や連携協定大学などとの連携による地域資源を生かした農林水産業の振興	―
（２）生産基盤の整備や先進技術を活用した高性能機械の導入などによる生産性の向上	・農業水産等のＤＸ化。ＡＩ、ＩＯＴ活用推進 ・農業の集約化（会社制度の導入等）
（３）林業経営体、林業事業者等への情報提供による計画的な経営計画策定の推進	―
（４）素材生産の拡大による市産材の安定供給と環境に配慮した施業の推進	―
（５）漁港・漁場施設、漁業生産施設の計画的な整備	・漁船、農業機器等の更新への100％補助金制度
（６）稚貝等の放流や食害生物の駆除、藻場の造成活動などによる漁場環境の保全	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・水産養殖の新規事業への補助

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（１）農林水産業の振興
施策	②　農林水産物のブランド強化

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　農林水産物は、主体的な価格形成が難しく、近年の資材高騰も影響し、収益化が難しい状況です。 ②　農林水産物のブランド価値向上のためには、市民がブランド価値を実感し、共有できることが重要です。 ③　自治体間の農林水産物のプロモーション競争が激化しています。	・下水、排水処理の整備強化（水質改善の為） ・輸出が弱い（気がする…） ・市民からの農林水産物のイメージがよくない？ ・糸島のおみやげで「これ！」というものがない（いろいろあるけど特に有名なものがない）。日もちするものもない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　農林水産物の高付加価値化を推進し、収益の向上を図ります。 ❷　市民が農林水産物や生産者を身近に感じられるための取組を推進します。 ❸　糸島産材の利用や販売を促進します。 ❹　社会状況やニーズに応じた情報発信と、他市町村と差別化したプロモーションを展開します。	・地域商社に対するバックアップ ・若い世代向けはＳＮＳの活用がよい

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）市場に求められる商品づくりへの支援と販路や流通体制の確立	・輸送コストに対する補助（他地域でやっていた） ・素材を活かした６次化商品をどんどん生み出すしくみづくり。料理研究家コラボなど ・新商品の開発
（２）直売所等の活性化や学校給食での利用促進による市内農林水産物の市民向けＰＲ	・小規模な直売所に行くキッカケになるイベントなどないか
（３）市内飲食店での市内農林水産物の利用促進による食の町糸島のイメージの形成	・ブランドとしてこれ！という推しの商品を打ち出していく ・糸島素材をよりよく活かすために国内、海外も含め一流シェフ、レストラン等とのコラボ促進 ・糸島市のブランド品を使ったレストラン、カフェなどの飲食店 ・糸島食材を使っている飲食店などをＰＲ
（４）糸島木材のブランド化の推進と糸島産材住宅の購入支援	・木材の地域ごとの差別化が難しい
（５）生産者の思いや背景にあるストーリーを重視した国内外におけるプロモーション	・総合的なブランド広報の部署の設置（断片的ではインパクトがない） ・糸島ブランドを総合的に、戦略的に考え打ち出していく「マーケティング部」（各部署に横串をさす）の創設「ブランドマーケティング部」 ・ブランドとしてこれ！という推しの商品を打ち出していく ・糸島素材をよりよく活かすために国内、海外も含め一流シェフ、レストラン等とのコラボ促進
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・交流人口増加も含め生産活動へ他県から「コト体験」を行うために参加してもらう。「魅力的な体験商品づくり」 ・「糸島ファンクラブ」を作って会費を取りながら「体験参加」「商品販売（サブスク）」を行う（県内外ともに） ・ＳＮＳでブランド品の魅力を発信 ・芥屋カブなど昔ながらの野菜をもっとＰＲする

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（１）農林水産業の振興
施策	③　担い手の育成と確保

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　農林水産業の従事者数は年々減少しており、高齢化も進んでいます。 ②　農業者の減少により、水路やため池等の農業施設の維持が困難になることが見込まれます。 ③　農林水産業者確保のため、担い手や後継者がより働きやすい環境を整備する必要があります。 ④　林業は労働災害の発生率が高く、担い手の確保が難しい要因の一つとなっています。	・生活できる収入を確保する手立てが必要 ・ＤＸ化して少ない力で作業をしている生産者が少ない ・新規就農者の技術向上や品質を高めるのが難しい

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　新たな担い手が参入しやすい環境づくりを進めます。 ❷　農村環境を将来に渡り維持するため、多様な担い手、多様な農地維持のあり方を検討します。 ❸　漁業者等が取り組む経営改善を支援するとともに、経営環境の改善に努めます。 ❹　林業における作業環境の改善に努めながら、森林保全の担い手や後継者の育成を図ります。	・特定技能実習生を雇用できる体制づくり（特に住居など） ・地域で協力して農業ができる仕組みづくり（手のあいてる人が収穫を手伝うなど。体験にもなる） ・最低賃金以上を稼げるための施策

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）農林水産業に携わる多様な担い手の確保に向けた取組	・子どもの農業体験（単発ではなく年間など） ・学生の第一次産業。お手伝い。学校行事など ・交流を深めたコミュニケーションづくりにより幅広い人々が参加し、農業体験できるようにする ・働く人の数を増やす。アルバイト、高齢者もできる作業を分担 ・健康づくりの一環で「短時間で農作業を手伝えるしくみづくり」。高齢者でも１日１時間ならできたり、週２回ならＯＫなど
（２）新規就業者や後継者の経営安定や地域への定着に対する支援	・新たな手法を用いるなどして農業を稼げる職業にする（レクチャーを受けるなど） ・ベテラン農家さん（生産者）と新規参入者との交流、マッチング ・会社制度の導入と推進。若者が従業員として定着、安定出来るようにする
（３）地域農業や農地情報の提供など、地域と連携した担い手の確保	・元からいる農家と新規就農者が関わり合うコミュニティがあったら良いのでは ・ＪＡの情報等を外にも発行するとよいのでは？（市と連携も検討？） ・収入を上げるしくみ。稼ぐ仕事にしてイメージアップ
（４）漁業経営を下支えする制度の検討、実施	―
（５）安全で効率的な作業環境の整備による林業従事者の安全確保と所得向上	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・農業用機械等のシェア ・農法のアピールで全国から人をよぶ ・ＪＡ伊都の収益、利益をＤＸ化、ＩＴ化に投資して導入していく仕組みづくり→人手不足対策合理化 ・休日を増やす

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（１）農林水産業の振興
施策	④　持続可能な農村環境づくり

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　農村集落における高齢化の進行、農業の担い手の減少により、豊かな農産物を育み、美しい田園風景をはじめ、水源涵養などの多面的機能を有する農地の維持・管理が困難となっています。 ②　農地の耕作放棄地化や水路、農道等の荒廃は、地域の生活環境の悪化にも繋がります。 ③　少ない担い手で農業生産を維持していくためには、効率的に利用し、管理できる農業基盤が必要です。 ④　人口減少や耕作放棄地の増加などにより、山間部を中心に有害鳥獣が増加しています。	・漁村環境に関する定着などがない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　地域協働による農業を続けやすい環境づくりにより、農村コミュニティ並びに糸島の魅力の一つである自然環境の維持に努めます。 ❷　優良農地を確保・維持するとともに、農業基盤の整備や補修により、耕作しやすい、維持管理しやすい農地づくりを推進します。 ❸　農業利用が難しい山間部などの農地については復山化などを含め、今後の利用について検討します。 ❹　農林業の環境や生活環境を維持するため、地域と一体となった鳥獣被害対策を進めます。	・水産課の予算が少ないので上げてほしい ・まち部と農村部が協力しないといけないのではないか ・不耕作地を集約して大規模化が容易にできるようにする

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）地域計画に基づく農地の効率的・効果的な将来利用の促進	・農業の振興区域等各々の区域に合った推進を行う
（２）地域協働による農業生産基盤確保のための農業用施設の維持・保全	―
（３）農業用機械の共同利用への支援などによる地域農業の省力化、効率化の推進	・（３）強化すべき！
（４）大学や民間の知見等を取り入れた有害鳥獣の頭数抑制や被害軽減対策の推進	・ＡＩ、ＩＯＴの活用による害獣対策→そして食用へ
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・支援の申請を電子化するなどハードルを下げてもいい ・オーガニックビレッジ ・農業の会社制度化と推進。活性化する ・交流を深めたコミュニケーションづくりにより幅広い人々が参加し、農業体験できるようにする ・誰でもできる農業をサポート

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（２）地域経済の活性化
施策	①　未来を担う企業の創出と育成

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　創業者数は増加しているため、この水準を継続しながら、未来を担う企業の育成に向けた取組が求められます。 ②　起業支援の取組により起業が増える一方で、しっかりとした経営計画が立てられていないことなどから、短期間で廃業するケースが多く見られる状況です。 ③　地域経済の活性化のためには、生産性や付加価値が高い産業の育成が必要です。	・小規模経営が多い ・事業継承に関する課題が示されていない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　創業者数を増加させるとともに、短期間での廃業を減少させる取組を推進します。 ❷　創業後の経営の安定や成長を促進するための取組を進めます。 ❸　企業の育成により、生産性や付加価値が高い企業を増やします。	・仕事と自分の好きなことを両立できる ・中高生が働きたいと思う職業の創出

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）経営計画の策定支援など創業の段階に応じた切れ目のない支援	・起業を推進する為、起業と希望する者の相談窓口（行政で）を設ける ・糸島でどんなビジネスの可能性があるのかワークショップ等で洗い出しリストアップする ・起業家育成プログラム実施
（２）企業の経営力を高めるための学習会など経営者の学びの機会の創出	・起業家同士が集える場づくり（コ・ワーキング、シェアオフィス、コ・リビング）インキュベーター施設
（３）プロ人材の副業を活用した商品等の高付加価値化や、生産性向上の取組に対する支援	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・インターンシップ。学生が職業を体験する ・糸島版ＭＢＡに取り組む ・福岡市産学連携施設を連携して活用していく（あまり稼働していない感じがしてもったいない）

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（２）地域経済の活性化
施策	②　地域経済循環率の向上

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　民間消費の市外への流出により、本市の地域経済循環率は、近隣市町村と比較して低くなっています。 ②　雇用や豊かさの源である市内経済について、さらに活性化させる必要があります。	・公共機関が少ない ・宿泊施設が少ない ・中学、高校生が遊べるところが少ない ・糸島市の物が多く置いてあるお店をあまり知らない ・中高生が楽しめる施設 ・街づくりの基本が全然見えない。住民の声が盛り上がる期待

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　市外へ流出している消費を市内に呼び込むとともに、糸島産品や市内の店舗、企業に対する市民の愛着を高める取組を推進します。 ❷　糸島産品を市内で販売・購入しやすい環境を整備します。	・何でも糸島！糸島の人が糸島で買い物をする ・糸島といえばこれ！とすぐ見てわかる物 ・糸島ブランドを守る施策はできないか？ ・直売所のさらなる活性化

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）事業者間の交流促進による市内受発注の拡大	―
（２）糸島産品に対する市民の愛着を高めるための情報発信	・糸島ならではの食材の紹介（ＳＮＳの活用）
（３）市内直売所や産直コーナーの充実等による糸島産品の販売・購入の活性化	・直売所を地元住民10％ｏｆｆにする事で地産地消の促進 ・まちなかフェスのような文化事業と組み合わせて推進する ・直売所が少ない。伊都菜彩の土日の混雑がひどい。他に直売所をつくれないか？
（４）学校給食や飲食店などでの市内農林水産物の利用促進	・学童のお弁当を糸島食材で作って配達するサービス ・給食センターをつくる。糸島の食材を使用する
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・ホテルの誘致 ・糸島ワインプロジェクトに次ぐ農産品プロジェクト ・駅周辺に泊まれる所を増やす ・地産地消の推進の為、組織（行政等）を設置する ・ジャズクラブをつくる。飲んで、泊まれる施設へリノベする（既存施設活用） ・地域活性化のためにはアート的要素があることにより楽しい魅力的なまちになる。サンセット、フェスのような好事例もあるようにアーティストが日常的に活動できる場づくり ・アートスクールの創設 ・伊都文化会館をもっと活用する等、イベントをプロモートする組織を設置する

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（３）観光の成長産業化
施策	①　地域資源を生かした観光の振興

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　個人観光客が増加しており、他の地域では体験することができない糸島ならではの体験が求められています。 ②　糸島のブランドイメージや知名度が、市内事業者及び生産者の収益の拡大に結び付いていない状況です。 ③　観光客の増加に伴い、一部の地域において市民生活に支障を及ぼす事案が発生しています。	・元々糸島にいる人より外から来た人の方がブランドを上手く使っている ・人が来るのは志摩が多い ・レンタカーが少ない ・宿が少ない

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　観光地域づくり法人（ＤＭＯ）である糸島市観光協会とともに、体験型観光の充実を図ります。 ❷　観光客の滞在時間の延長や宿泊客の増加などにつながる取組を推進し、消費活動の拡大を図ります。 ❸　オーバーツーリズムへの対策を強化し、観光の振興と市民の日常生活を両立させた、持続可能な観光を目指します。	・二丈エリアに観光スポットを充実させる ・ランドマークを観光、交通の拠点化 ・商店街の活性化

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）観光協会によるマーケティングに基づく交流・体験プログラムの造成支援	・いちご狩りなどの体験するのを増やす ・観光農園を充実させる
（２）産業の種別や地域を越えて事業者が連携し、糸島の知名度を活用する事業の展開	・前原駅周辺に糸島アピール施設をつくる
（３）マナー啓発と観光情報の発信による「場所による観光客の分散化」と「時間による観光客の分散化」の推進	・レンタルサイクルの返却場所を各観光地に増やす ・レンタサイクルのまち、きちをたくさん作る
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・民泊村をつくる ・例えば可也山にケーブルカーを設置する等、ランドマークをもう１つ２つ増やす ・観光案内拠点「ステーション」をつくる。宿泊、レンタカー、レンタサイクル ・オタク育成のまちにしてはどうか（マンガ、地下アイドル） ・長期滞在施設の創設。体験型（農業、漁業、登山、マリンスポーツ） ・長期滞在用に「施設＋レンタカー＋レンタサイクル」の格安パックをつくる ・宿泊にコンテナハウスをあちらこちらにつくる ・地下アイドルが発信する場づくり。オタク育成 ・子どもがあそべる屋内施設 ・唐津街道の復元ｏｒ整備、・唐津街道の復元化を少し。

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（３）観光の成長産業化
施策	②　おもてなし環境の充実

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　観光スポットが分散しているため、観光客の移動手段を確保し、周遊性を向上させる必要があります。 ②　多様化する観光客のニーズに応じたおもてなし環境の充実を図ることが求められます。	・観光地でお酒が飲めない※交通事故により ・観光名所の案内看板が少ない ・サンセットラインに乗るまでが駅等から遠い ・駅の周辺のコインロッカー ・レンタサイクルが少ない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　車以外の手段で観光地を周遊できる仕組みを構築します。 ❷　観光客のニーズを把握し、ソフト・ハードの両面から取組を進めます。	・歩いて観光する名所をつくる

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）JR 筑肥線、路線バス、レンタサイクルなどを活用した観光周遊性向上の促進	・観光案内拠点「ステーション」をつくる。宿泊、レンタカー、レンタサイクル ・サイクリングロードを作って自転車でも行く理由を作れば良いのでは ・各駅に乗り捨てできる仕組み。サイクルマップづくり
（２）糸島市公共施設等総合管理計画に基づく観光関連施設の計画的な整備	・（２）内容がよくわからない。ファームパーク、山の家等の整備のこと？
（３）観光客ニーズ調査に基づく観光関連事業者のおもてなし力向上の支援	
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・観光拠点「ステーション」にて空き家に泊まれるしくみづくり。アルベルゴ・ディフューゾ ・前原駅（糸島駅）のデザイン化 ・ＪＲ「前原」駅を「糸島」駅へ ・昼間の運転代行を増やす ・無料の駐車場を増やす。駐車場でかせぐのではなく ・ＳＵＰ、サーフィン、海水浴等、無料の水洗い場設置 ・インバウンド招ち ・昭和バスだけに頼らない。トゥクトゥク、ソンテウの導入（観光客、地元民の利用） ・駅から降りた時の風景を変えたい

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（４）企業誘致の促進
施策	①　企業から選ばれるまちの創出

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　市内の事業所数、従業者数は増加していますが、製造品出荷額はほぼ横ばいに推移しているため、さらなる経済の活性化につながる企業誘致の取組が必要です。 ②　本社・支社の拠点機能の地方分散の流れを捉えるため、既成市街地等で一定規模の用地確保が求められます。	・糸島に住みたい人が少ない（県内22番目）。地元民と新しい人のコミュニケーション ・糸島市内にはお店がないので、休日は福岡市内ですごすことが多い。糸島にはお金が落ちていない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　市民の雇用の場の確保に向け、企業誘致の取組を継続します。 ❷　九州大学が持つ知的資源や優秀な人材を生かす付加価値創出型企業の誘致活動を進めます。 ❸　本市の魅力との調和を図りながら、新たな産業団地の整備などによる企業立地場所の確保を進めます。	・商業施設をつくる（大型）。コストコとか。雇用も大幅に増える。 ・大企業を呼ぶ。変化を恐れない ・大きなショッピングセンター（買いに行く時は、どうしても福岡市内になってしまう） ・人口増の目標設定。目ざせ20万人都市。上下水道整備、計画的宅地開発 ・大型複合施設の誘致

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）企業立地推進計画に定めた方針に基づく効果的な誘致、支援活動の実施	・コストコにきてほしい ・アウトレットモールの誘致 ・ＡＩ、ＩＴ企業、エンタメ企業等を戦略的に誘致する。決してハード系でないもの×農業、漁業、観光
（２）前原インターチェンジ周辺地区、二丈武・松国地区や国道202 号バイパス沿線の波多江・篠原地区において、必要に応じた企業用地の確保や産業団地の整備促進	・工場が建てられるように土地利用を変更する ・企業誘致が進まない理由。県内でも企業種が少ない。交通の便、人の行き来が多いのにと思う
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・法人税が県内で最も低い？（規制緩和）が進んでないのでは！

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標５	ブランド糸島で活気あふれるまちづくり
政策	（４）企業誘致の促進
施策	②　新産業を創出する学術研究都市づくり

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　九州大学連携地域となっている糸島リサーチパーク、前原ＩＣ周辺、九州大学周辺地区には、新たな企業等に紹介可能な造成済用地はありません。 ②　県や商工会と連携した各種起業支援制度はあるものの、市内での起業や九州大学発ベンチャーを支援・育成する取組が求められます。 ③　糸島サイエンス・ヴィレッジ（ＳＶＩ）構想の実現に向け、九州大学西側隣接地の土地利用を早期に進めていく必要があります。	―

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　九州大学の研究との連携に期待する企業・研究所等の集積に向け、九州大学連携地域への誘致活動と土地利用の促進を図ります。 ❷　九州大学、ＯＰＡＣＫ、商工会等と連携し、「誰もが起業しやすいまち」を目指します。 ❸　福岡県、九州大学、ＯＰＡＣＫ、ＳＶＩ推進協議会等と連携し、ＳＶＩ実現化のための法手続きを進め、民間主導による事業化を図ります。	・産学連携の仕組みを作ってほしい ・九大生を起業させる仕組み作り ・学生起業支援

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）九州大学連携地域における用地確保を見据えた企業・研究所等の誘致活動	―
（２）九州大学の研究者や学生を主な対象とした起業支援と相談窓口の設置	・九大発ベンチャー支援の為の施設を創る
（３）九州大学周辺地区での民間開発の適切な誘導による土地利用の促進	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	―

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

—	—
重点課題３	**経済活性化（稼ぐ）への取組**
施策	**“糸島しごと”のブランド化プロジェクト**

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　テレワークの普及を進めてきましたが、テレワーク以外の多様な働き方の提案も求められます。 ②　市内の多くの産業・事業所で、労働力不足によるさまざまな課題等が顕在化してきています。 ③　起業支援の取組により、起業が増える一方で、大学関係者による起業は進んでいない状況です。	・公共施設の長寿化計画は進んでいるのか。（県）指導を受けたらいいのでは ・若い人は糸島でどんな働き方ができるか分からない

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　市内で就業・起業する意識の醸成を図りながら、副業や二拠点居住などの多様な働き方を提案します。 ❷　起業家教育により、市内にある仕事の魅力と働くことの重要性を伝え、“糸島しごと”に繋げます。 ❸　協定締結大学等の学生や研究者が、市内で就業・起業する意識を醸成します。	・学生が糸島でアルバイトや就職できるサポート ・起業家を増やすことに並行して企業誘致（支店など）しないと経済活性化につながらない。税収が増えない ・↑過去にどんな企業を誘致したか知りたい

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）副業や二拠点居住などの多様な働き方に取り組む企業や人の情報発信	・（１）←足りない！学生にも情報を ・二拠点住居を誘致する→東京や大阪などに ・起業に興味ある人たちの場づくり
（２）市内の多様な働き方に対応したスポットワークの求人を増加させる取組	—
（３）民間企業等と連携した就労環境や「糸島市内で魅力的に働き、生活する人」の情報発信	・海を見て仕事（テレワーク）する施設を作る
（４）協定締結大学等の学生による市内企業等での就業体験や学生・研究者による研究の実施	・学生の農業（第一次産業）アルバイト
（５）糸島市教育センターにおける教員研修による中学校での起業家教育の充実	—
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・最後のサンセットライブ。糸島市民で知らない人も多い。市民主体のイベントに再構築

● 第３回まちづくり市民委員会で出された意見等

—	—
重点課題４	**学術研究都市づくり**
施策	**“糸島サイエンス・ヴィレッジ”実現化プロジェクト**

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①　糸島サイエンス・ヴィレッジ（ＳＶＩ）では、実証事業は実施しているものの、新たな技術・価値・サービスの社会実装までには至っていません。 ②　ＳＶＩの取組が市民、大学関係者、企業等に十分に浸透しておらず、それぞれの交流機会が不足しています。 ③　九州大学西側地区には、新たな企業・研究所等の立地可能な場所がないため、ＳＶＩの土地利用に係る調整や法手続きについて、福岡県など関係機関との協議を進める必要があります。	—

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶　九州大学、ＯＰＡＣＫ、ＳＶＩ推進協議会等と連携し、ＳＶＩでの研究、実証、実装を進めます。 ❷　積極的な情報発信・収集によるＳＶＩの認知度向上を図ります。 ❸　市、ＳＶＩ推進協議会、まちづくり会社の役割分担により、ＳＶＩの具体的な事業計画等を検討し、法手続きや企業等の誘致を進めます。 ❹　ＳＶＩの実現を民間主導で目指します。	・面白い企業に参入してほしい ・老若男女が集えるまちづくり（若者を中心とした）

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）九州大学研究者や企業等がSVI に関与する仕組みづくりとコンソーシアム組成等の運営支援	—
（２）効果的な情報発信による市民、大学関係者、事業者等との交流機会の創出	—
（３）まちづくり会社が事業主体として行う開発等都市的土地利用の促進	・土地利用制度の柔軟化
（４）ＳＶＩの理念に合致した企業（事業所）・研究所・交流施設等の誘致	—
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・アーティストの活動の場。アートビレッジも組みこんでほしい。アーティストインレジデンス ・誘致の長期計画を策定し、安心して企業が進出可能にする ・九大発ベンチャーへの資金的サポート